

2015年(平成27年)
6/25(木)
Thursday

きょうの

発言

宮原小学校(氷川町)にパトリシアジェーン、鏡小学校(八代市)にベティジェーンという「青い目の人形」が太平洋戦争の戦禍をめぐり抜け、大切に保管されています。人形を贈ることを提唱したのは布教のために来熊し、熊本英学校の教師も務めたシドニー・ギューリック宣教師です。帰国後の昭和初期、排日移民法等で政治的緊張が高まる中、

高谷 和生 くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク事務局長

語り継ぐこと

日米の友好と平和の証しとして1万2739体の青い目の人形が日本の小学校や幼稚園に贈られました。一方、日本からも答礼として58体の市松人形が贈られ、日米間の親善を果たしました。その後、開戦に伴い、県内に216体あった平和の使者は敵性人形とみなされ、その多くが焼却処分されたり、竹やりで突かれたりしてうち捨てられました。戦後70年、県内に残された戦跡・遺構を、証言や記憶、歴史資料、現地調査記録を積み重ね

ながら、青い目の人形のように「物言わぬ平和の使節」として語り継ぐことができるのでしょうか。

文化庁選定の全国50カ所の戦争遺跡(群)でさえ、報告書の未刊行や価値の未確定から、荒廃の危機に瀕しているのが現状です。

県内戦跡保存の市民団体連合体「戦争遺産フォーラムくまもと」では、県民の皆さんとともに、熊本に残された貴重な戦争遺産を平和の使者として語り継いでいきます。

2015.6.25